

～標高の高さを活かした大規模トマト栽培～ 田丸 幸彦さん(久万高原町)

[所属・役職等]

①久万高原トマト部会

1982 年生まれ

②久万高原トマト部会青年部

中山間地域等直接支払制度日野浦・大谷集落 代表

多面的機能日野浦・大谷活動組織 代表



☆経営概況☆

栽培品目 夏秋トマト（桃太郎・40a）、水稻（品種：あきたこまち、40a）

労働力 幸彦さん夫婦と両親の4人

☆ここがポイント☆

■就農の経緯

農業を継ぐため、2003年に愛媛県立農業大学校に入学し、2005年に卒業と同時に就農しました。当時、我が家は40年以上続くダイコン農家で、就農当初は祖父母・両親と自分の5人で4.5ヘクタールの畑でダイコンを栽培し、松山や高知へ出荷していました。しかし、夏場の高温により、ダイコン栽培にも影響が出始めたことから2008年に思い切ってトマトに転換しました。ゼロからのスタートで苦労しましたが、近隣の先輩農家さんたちにいろいろ教えてもらいながら栽培方法を学びました。

■栽培のポイント

就農地である大谷地区は、標高700～800mの山腹集落で、土壌は排水性の良い火山灰堆積土です。標高が高いので涼しく、トマト栽培に適していると思います。土づくりにも力を入れており、毎年大量のカヤやくん炭を畑に入れトマト栽培に適した土を作っています。

■経営の特徴

現在は、夏秋トマト約7,000本を栽培しており、樹勢が強い品種を栽培しています。勢いよく成長するので管理が大変ですが、大きい果実がたくさん実ります。家族で作業を分担して効率化に努めています。両親は葉かきや芽かき作業を、私たちはホルモン処理と誘引作業を行っています。

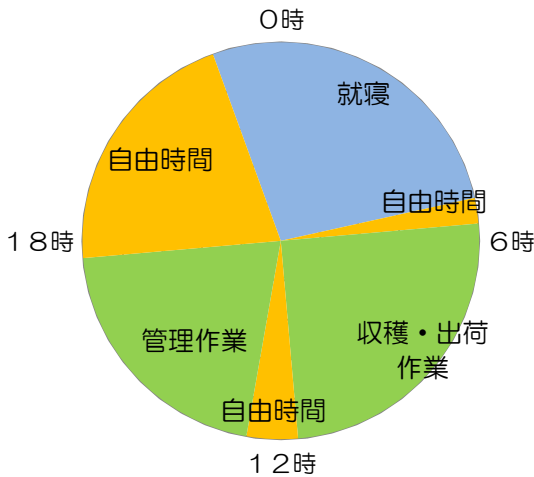


標高700mの高地に広がるハウス



トマトの管理作業

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

夏場と冬場で生活リズムが大きく変わります。トマト最盛期の7～9月は早朝から家族総出で収穫・管理作業に追われる日々です。

冬場は積雪のため作物ができないので、春に向けた畑の準備などを行っています。夏場と比べて時間があるので3人の子供たちとゆっくり遊ぶことができます。

近くにスキー場があったことから、家族皆スキーが得意です。年に数回は県外のスキー場へ出かけて余暇を楽しんでいます。

また、魚釣りも好きで家族でよく出かけます。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	(出荷が休みの日や予定に合わせて休日を取る)					
← 収穫・出荷・管理作業 →						
【農閑期】	(予定に合わせて休日を取る場合もある)					
← 栽培管理 →					← 休日 →	



家族でスキーに行きリフレッシュ！



農業研修生の視察を受け入れ

☆これからの夢や目指すもの☆

トマトを10アール当たり15トン以上収穫して安定した所得を得られるよう、トマトの台木特性に合った栽培管理技術や温暖化に対応した細霧冷房装置の導入などを検討していきたいです。

☆メッセージ☆

農繁期は決まった休みがとりにくいですが、自分のペースで段取りして作業することができます。自分が頑張った分だけトマトが応えてくれるので、やりがいがある仕事だと思います。久万高原町はトマト農家を目指す新規就農者のための制度が充実しています。私たちと一緒にトマトを栽培してみませんか。